

# 体験プログラム技術仕様開発プロジェクトへのエグゼクティブガイド案

2022 年 7 月 4 日

UNCEFACT 旅行/観光部会 EPs 技術仕様開発専門家 編集

## 1. はじめに

このプロジェクトは、部会が「持続可能な観光体験プログラム」に関するグリーンペーパー<sup>\*1</sup>を策定した後、旅行/観光部会の専門家によって開始されました。専門家は、彼らの EPs 製品を世界的に取引するためには、体験プログラム (EPs) に関する技術仕様を開発する必要があることに気づきました。「体験プログラム技術仕様開発」と名付けられたプロジェクトがビューローによって承認されたのは、2019 年 9 月でした。

開発はその後すぐに本格的に開始されましたが、2020 年 4 月頃に深刻な COVID-19 パンデミックの問題に直面し、プロジェクトは 1 年間中断を余儀なくされました。そして、遅れた開発は 2021 年末頃に終了することができました。Bureau は、BRS (Business Requirements Specification ビジネス要件仕様書) の草案を 60 日間パブリック コメントのプロセスに入れることを承認しました。このプロセスの後、2022 年 6 月にビューローは、受け取ったコメントを反映した改訂版の BRS を承認しました。

部会は、SLH (Small scaled Lodging House 小規模宿泊施設) 情報処理関連プロジェクトを完了しており、その技術仕様開発も ebXML に基づいていて、このプロジェクトに組み込むことができました。なお、今回開発した技術仕様は、現在の XML による利用だけでなく、近い将来の API による利用にも適用できるよう、RDM (Reference Data Model) の概念によって評価されていました。

このプロジェクトは、五か国の HoD<sup>\*2</sup> の支援により活動を開始することができ、関係者から高く評価されました。

注 1: 2019 年 4 月に UN/CEFACT によって公開されました。

注 2: 五か国の HoD は、現在ギリシャ、スペイン、ロシア、フィンランド、および日本です。

## 2. 体験プログラム技術仕様開発プロジェクトとは

### 1) EPs と UN SDGs

EPs は、地域の人々が地域での生活を維持するために作り、またこれから作る観光商品といえます。また、作成者は旅行関係者だけでなく、その地域のあらゆる事業者である可能性が

あることに注意すべきです。彼らは元々、環境を維持するために EPs を作成することに熱心ですが、生活の質を向上させたいと考えています。彼らが UN SDGs の概念を受け入れるのはごく自然なことです。

従来都市部で作成されていたツアー商品は、EPs の商品と同じ技術仕様で処理されるべきであるということが、グリーン ペーパーが作成されたときに議論され、理解されました。そして、それらのツアー商品も、最終的には UN SDGs を考慮して作られる必要があります。

図 1 は、このプロジェクトが「持続可能な観光のためのビジネス基準」プロジェクトの作業結果と一体になることを示しており、このプロジェクトでは、消費者が関心のある EPs の持続可能性の情報あるいは主張を取得するためのある種の指標が、UN SDGs のコンセプトに基づいて開発されることとなります。その指標は、プロジェクトの次のバージョンで公開されて使えるようになります。

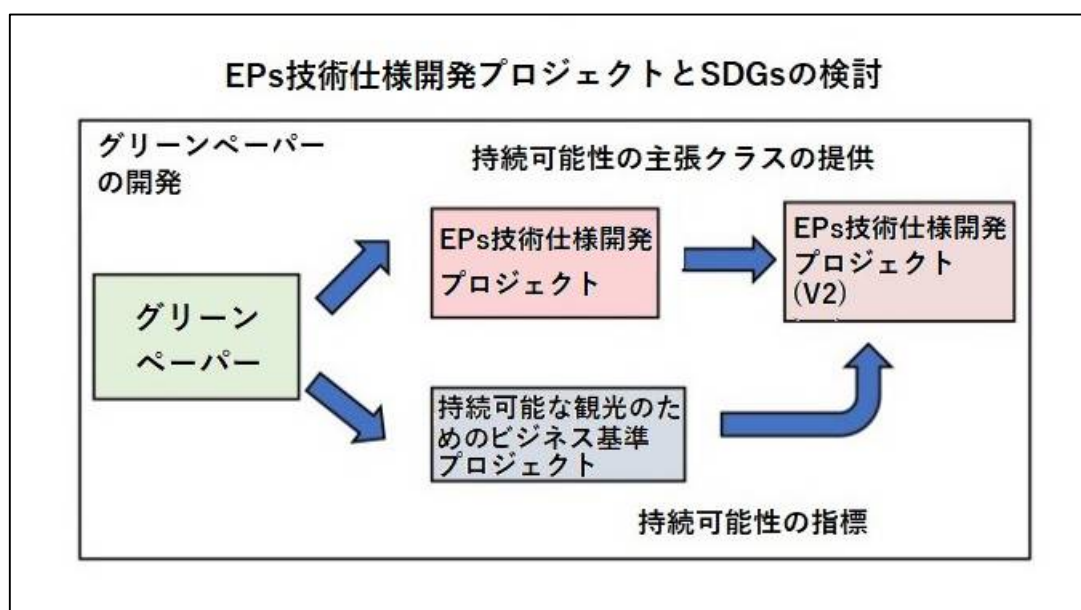


図 1 グリーン ペーパーと EPs の技術仕様開発プロジェクトの今後の展開

## 2) プロジェクトとは

このプロジェクトは、EPs を取引し、取引当事者間で関連情報を交換するための技術仕様を開発することで、これらは、図 2 に EPs 情報の要求者および EPs 情報の提供者として示されています。これらの当事者が多くの異なる役割を担っている可能性があることが図からわかるかもしれません。

EPs は、地域の個人または企業によって作成され、運営される地域の商品であるため、消費者または EPs 情報の要求者が知っておくべき多くの機能または情報を備えている場合があります。プロジェクトでは EPs 情報は、ニーズに適応するために分析されましたが、将来的にはさらに新しい情報項目が出現する可能性があります。それらを常にタイムリーに維持する必要があるかもしれません。

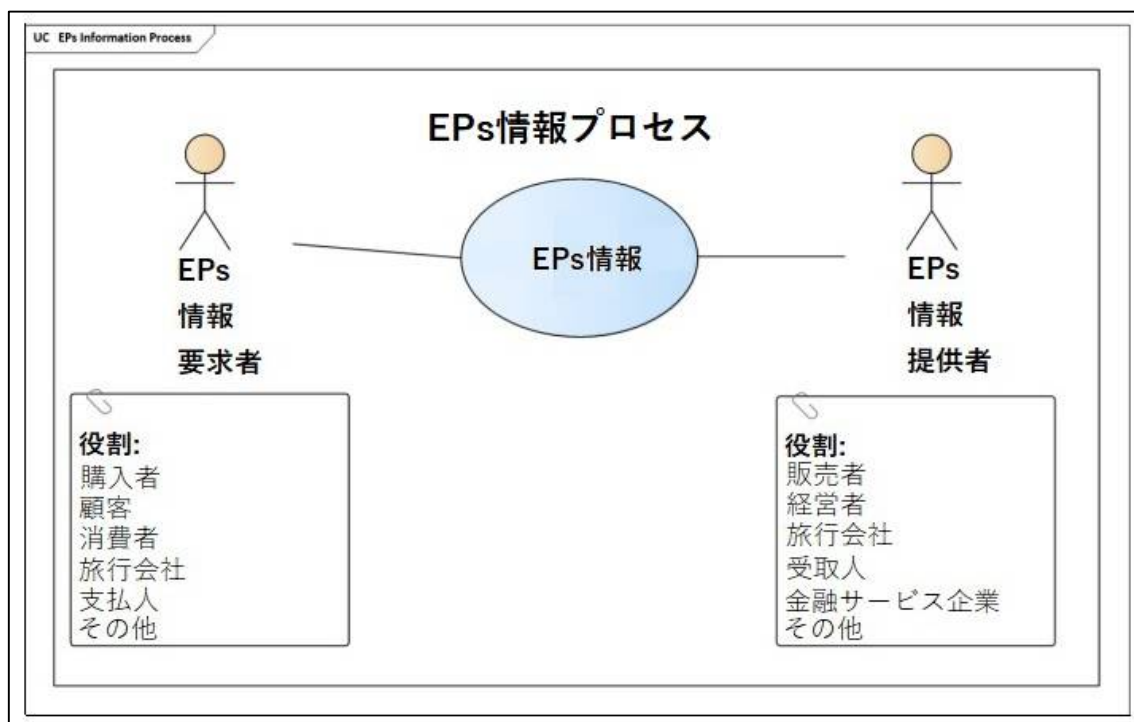


図2 ユースケース図

プロジェクトは、UNCEFACT 開発手順の下で使用するための次の出力を提供しました。

a. ビジネス要件仕様 (BRS)

この BRS には、クラス図、BIE およびコードリスト、要求および応答メッセージの構成が含まれています。これらの出力は、EPs の取引のための XML メッセージを形成するために使用できます。特に BIE は、RDM の概念によって評価されました。

b. 技術的実行ガイド (別冊参照)

3) 技術仕様の恩恵を受けるのは誰か

このプロジェクトの目的は、EPs をローカルだけでなくグローバルに取引できるようにすることです。また、EPs は、小規模なサプライヤー (SMEs) によって小規模な単位で世界市場に提供される可能性があります。その一方で製品の品質は優れている可能性があります。EPs 取引の事業を立ち上げるには、関係者の多大な努力が必要となります。EPs 関連の事業を取り巻く状況を図3に示します。

プロジェクトが標準化された成果物を出力できるようになる以上は、デジタル情報交換システムの開発は、それらから多くの恩恵を受けられる可能性があります。ブロックチェーン、XR、API などの改善された情報技術と、このプロジェクトの成果物を組み合わせることで、このようなローカルに分散された小さな単位の EPs を処理するためのコスト効果の高い EPs 処理システムの開発をサポートできることが期待されます。

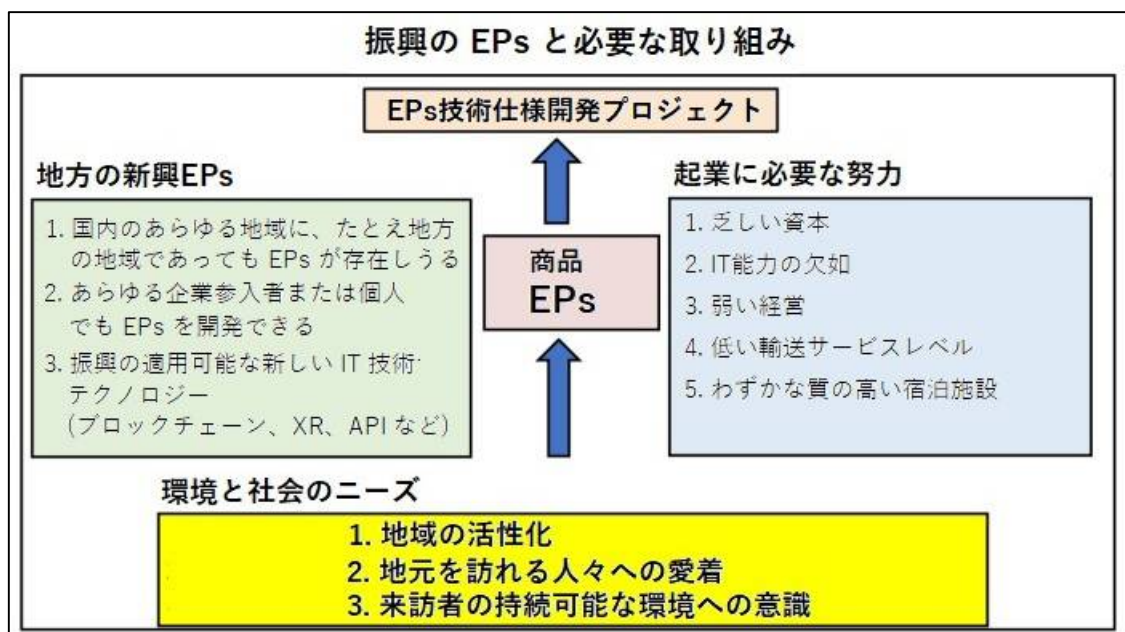


図3 社会の傾向と必要な取り組み

### 3. 将来へ

この段階以降でも、関係専門家による取り組みが継続されることとなります。プロジェクトの成果物は、可能な限り世界中のユーザーによって理解され、EPs の実際の取引に適用される必要があります。

これらは主に UNCEFACT の ebXML 仕様に基づいて開発され、XML テクノロジーのユーザーによって適用されます。消費者は、スマートフォンなどの可能な限り単純な手段によって、EPs を簡単に低コストで取引できることを期待していると認識されています。API は、近い将来、これらのユーザーにより良く適用できるようになる可能性があります。API テクノロジーはじきに使用できるようになる可能性があるため、関係する専門家は開発の次のステップとしてそれらを研究するようになるでしょう。

EPs をグローバルに取引するのに、購入者は、自分の取得した EPs が UN SDGs コンセプトと調和していることをよく認識しておく必要があります。EPs 自体は、次のバージョンの

作業によって消費者にいくつかのヒントを与えることになるでしょう。